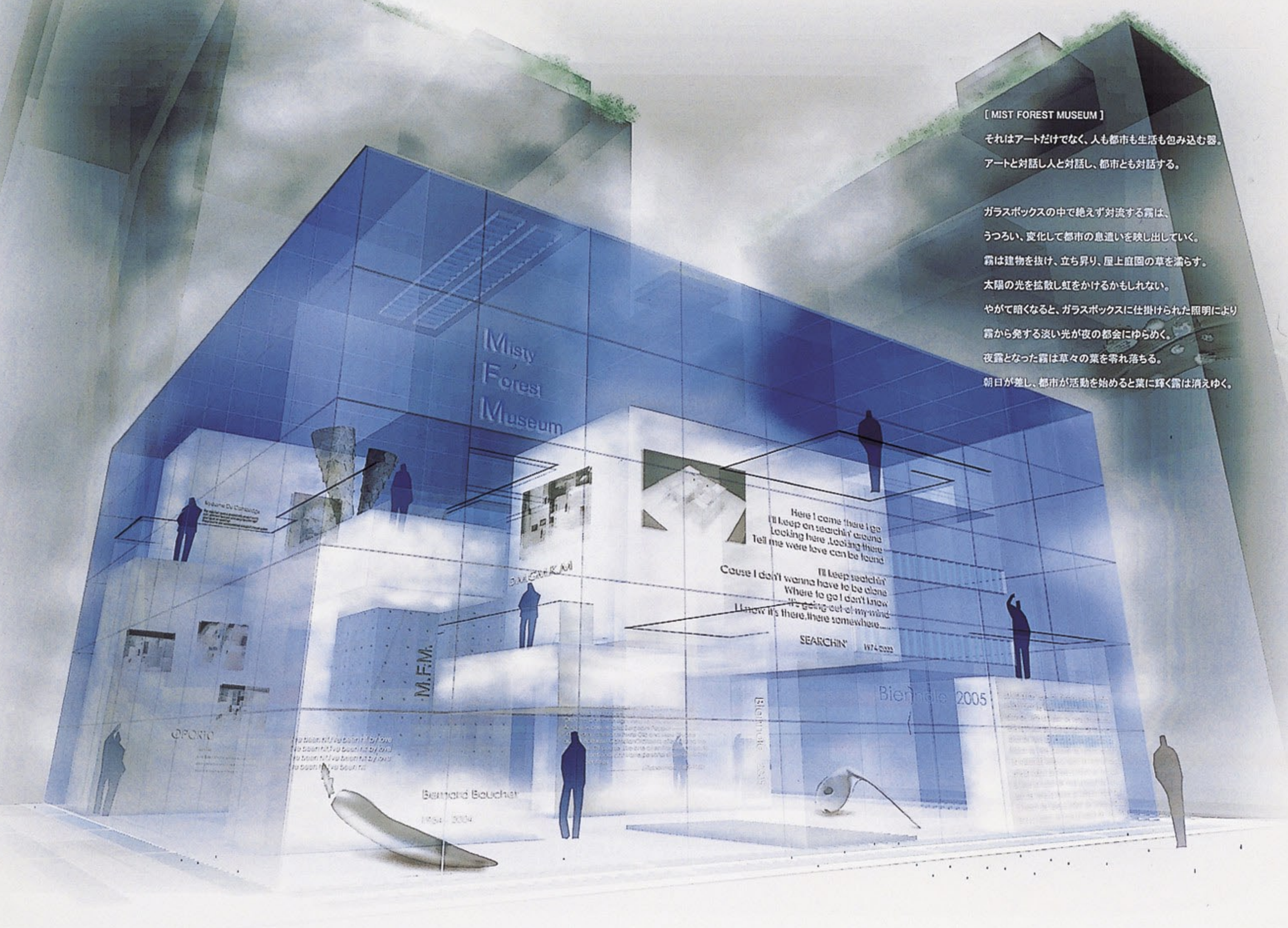


# MISTY FOREST



## [ MIST FOREST MUSEUM ]

それはアートだけでなく、人も都市も生活も包み込む。アートと対話し人と対話し、都市とも対話し。

ガラスボックスの中で絶えず対流する霧は、うつろい、変化して都市の息遣いを映し出していく。霧は建物を抜け、立ち昇り、屋上庭園の草を濡らす。太陽の光を拡散し虹をかけるかもしれない。やがて暗くなると、ガラスボックスに仕掛けられた照明により霧から発する淡い光が夜の都会にゆらめく。夜霧となった霧は草々の葉を濡れ落ちる。朝日が差し、都市が活動を始めると霧は消えゆく。

## 都市のスカイライン

屋上のいたるところに設置された冷却塔。都市の営みにより発生する熱を、大気中に発散し続けている。冬になればそれは白いミストとなって立上る。それはまるで建物ひいては都市が呼吸しているかのようだ。当たり前のように露出されたこれらの冷却システムが実は都市のスカイラインを形成している。



このようなシステムにより都市の冷却塔と屋上庭園がリンクして、都市における新たなアート空間が出現し、トータルな都市環境のバウチングデザインを形成する。

## 温水の冷却システム

開放された最下部の充填層から外気を導入すると、ガラスボックスが煙突効果を生み上昇気流が生じる。これを利用して、各建物より送られてくる温水 (40℃) がこの充填層を通過することで気化により熱を奪われ冷水 (32℃) となって各建物に再送される。気化した水は、ペアガラスで断熱されたガラスボックスを通り、建物上部へと排出される。一方美術館内部の空間は70%が内部循環し、30%が常に換気される。このとき排出される空気 (26℃) をこのボックスに吹き込むことにより蒸気を過飽和状態とし、ミストとして結露させる。冬場は温水を床暖房などに利用する。

## MIST BOX

ミストを内包したガラスボックスは、奥行きのある白い塊として時には壁、時には床、時には天井と様々な役割を演じ、3次元的にあらゆる空間を規定する。またその様相は刻々とつらゆらと変化する。ガラスボックスにミストが十分に満たされた時、境界は消え空間が発生する。そしてその濃度が下がると、境界は再び始まる。霧をコントロールすることによって、この美術館で行われる様々なアートに対して空間を提供する。

## 空間構成

空間効率を考慮して、「MIST BOX」のボリュームは、室内から吹込む換気量 (全室容積の30%) と同容積となっている。そのボリュームを分解再構成してこの美術館をつくれる。

## パッシブコントロール・アクティブコントロール

ガラスボックスに内包されるミストの濃度は、都市の緑率、周囲の自然環境、美術館内部の環境などが複雑に絡み合いながら、時々刻々変化する。そのうつろいゆく様相はまさに都市の息遣いそのものである。また、そのBOXを再構成し、霧をコントロールすることによって、この美術館で行われる様々なアートに対して空間を提供する。

## アート・人・空間・都市・環境

この曖昧でうつろゆく空間は、アートと空間の新しい関係を生むだろう。さらにはアートを見ている自分さえも見られるという「見る見られる」の関係性にも微妙なずれを生むだろう。この空間はまた新たなアートやものを生むインスピレーションをアーティストや都市を行き交う人々に与えるかもしれない。アートは時代を反映するという。この美術館はもう少し小さなタイムスパンで周辺環境を映し出していく。

アートと空間と人と都市と様々な要素が互いに影響し合う、うつろゆく空間。「アート・人・空間・都市・環境 それらをつなぐもの」それが都市における「新世代の美術館」と言えないだろうか。

